

平成29年度 活動報告書
「健口美[®]」レポート
2017

LION

公益財団法人 **ライオン** 歯科衛生研究所
<https://www.lion-dent-health.or.jp/>

東京本部

〒130-8644
東京都墨田区本所 1-3-7
TEL.03-3626-6490
FAX.03-3626-4182

名古屋事業所

〒460-0003
名古屋市中区錦 2-3-4
名古屋錦フロントタワー 10 階
TEL.052-220-6780
FAX.052-220-6777

大阪事業所

〒541-0057
大阪市中央区北久宝寺町三丁目6番1号
本町南ガーデンシティ 5 階
TEL.06-7739-8422
FAX.06-6243-1467

東京デンタルクリニック

〒141-0002
東京都品川区東五反田 5-23-7
五反田不二越ビル 2 階
TEL.03-3473-6721
FAX.03-3473-6725

公益財団法人 **ライオン** 歯科衛生研究所

ご挨拶

私どもの口腔保健普及活動は、今から100年以上前の1913年に口腔衛生への関心を高めることを目的に東京で「ライオン講演会」を開催したことに始まります。このライオン講演会は、その後約20年間にわたって実施され、総開催回数は109,078回、聴講者数は延べ5771万人にも及びました。こうした口腔保健普及活動の傍ら、1921年には国内初の児童専門の歯科医院「ライオン児童歯科院」を開設しました。この2つの活動が、当財団の前身となっています。その後1964年に財団法人となり、2010年10月からは「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」として、口腔保健に関するさまざまな活動を展開しております。

口腔は、生活の中で大切な機能を果たし全身健康に大きく関与していることから、歯科の果たすべき役割はますます重要となってきております。こうした状況の下、国の「経済財政運営と改革の基本方針」の中で、「口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の充実など歯科保健医療の充実に取り組む」(抜粋)ことが掲げられ、さらには2018年4月に見直された「特定健診・特定保健指導」の質問票に「食事をかんで食べる時の状態」の質問項目が追加されるなど、口腔の健康を通じた全身健康への取り組みがますます重要視されてきています。

このような国の諸施策は、生活の質(QOL)の向上と健康寿命の延伸、生涯現役社会の実現をめざし、歯科口腔保健に関する



公益財団法人ライオン歯科衛生研究所
理事長 藤重 貞慶

さまざまな活動を行っている当財団の事業の方向性と極めてよく合致しているものと考えております。

さてこの度、当財団の活動をより多くの方々に知っていただくことを目的に年次報告書「健口美レポート 2017」を作成いたしました。ご高覧いただければ幸甚に存じます。

これからも、人々が健康で幸せな毎日を、満ち足りた人生を過ごせるよう口腔保健に関するさまざまな事業に取り組んでまいります。今後とも、当財団へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

「健口美」に込めた想い



(公財)ライオン歯科衛生研究所では、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、「健康な心と身体はお口から!」“健口美”のコンセプトのもと、生活者の生活の質(QOL)の向上につながるように支援を行っています。

Oral Health(口腔の健康)、Oral Beauty(口腔の美しさ)、Communication(コミュニケーション)の三つの要素が機能し、かつ調和していることからもたらされるもの、それが「健口美」です。三つの要素を保持・増進することで、口腔だけでなく身体(からだ)の健康および心(こころ)の健康、その結果として生活の質(QOL)の向上に繋がると私たちは考えます。「健口美」には健康なお口の「健」、良好なコミュニケーションを行う「口」、美しいお口の「美」という意味が込められています。

財団の概要

「お口の健康」を通じて、生活の質の向上に努めます

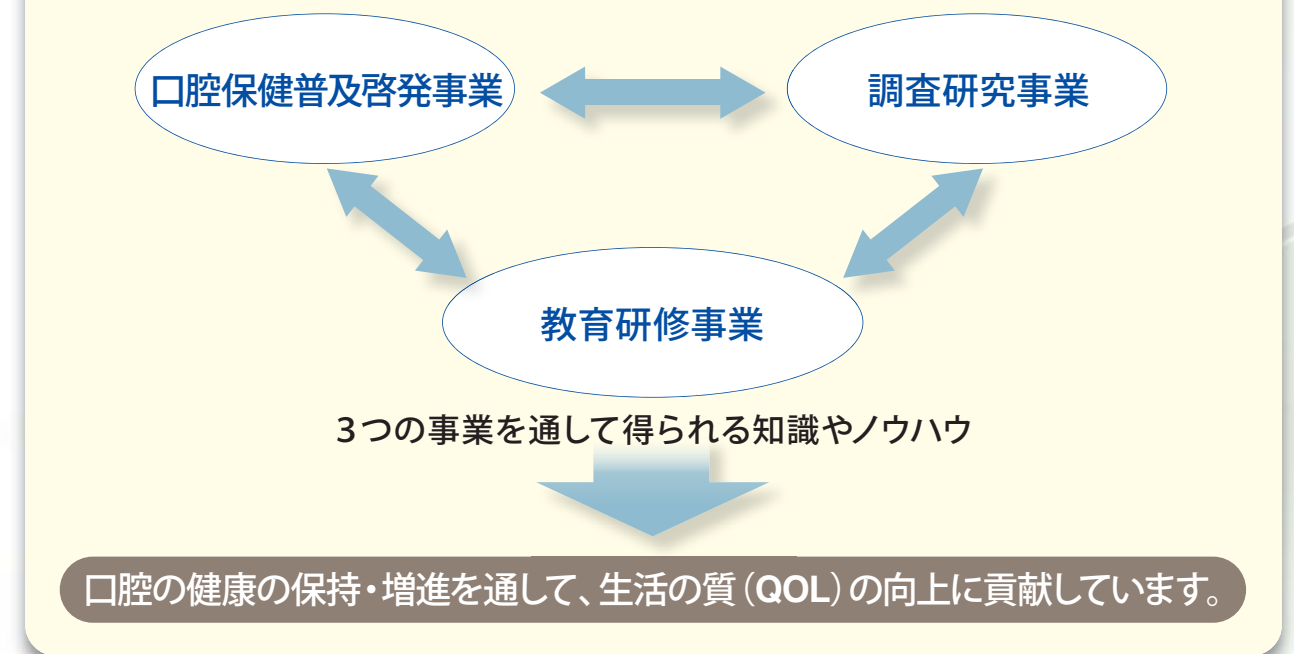
ライオンは「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業以来の一貫した理念のもと、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。当財団はその前身としての「ライオン児童歯科院」を1921年に開設、その後1964年に財団法人ライオン歯科衛生研究所として発足、2010年には公益財団法人ライオン歯科衛生研究所として「口腔保健普及啓発事業」、「調査研究事業」、「教育研修事業」の3つの事業を推進しています。

財団の3つの公益事業

- 1 口腔保健普及啓発事業** 乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージにおける口腔保健のテーマに応じた普及啓発を推進しています。
- 2 調査研究事業** 口腔保健普及啓発事業や予防歯科研究活動を通して得られた研究成果を専門家や生活者に情報発信しています。
- 3 教育研修事業** 保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を実施しています。

当財団では、これら3つの事業を通して、生活者の口腔の健康を保持・増進し、生活の質(QOL)の向上に貢献できるよう努力を続けています。

(公財)ライオン歯科衛生研究所の活動



障がいのある方に向けた活動の実施

東海地方を中心に特別支援学校 6校、約200名に対して「歯と口の健康教室」を実施

内閣府が作成した平成29年版障がい者白書によると『複数の障害を併せ持つ者もいるため単純な合計にはならないものの、国民のおよそ6.7%が何らかの障がいを有している』と報告しています。

当財団では、障がいの有無にかかわらず「歯と口の健康」の支援を行うため、合理的配慮(※)に心がけた歯科保健活動を行っています。2017年度は東海地方を中心に特別支援学校6校、約200名に対して「歯と口の健康教室」を行いました。

合理的配慮の例は様々です。例えば、聴覚障がいの方に対しては手話を用いて口の健康、歯のみがき方を説明しています。手話表現は聴覚障がい者の支援団体に監修を受けて実施しています。また、知的障がいの方に対しては文字とイラストを組み合わせて、分かりやすい資料作成を心がけています。そして、肢体不自由な方は障がいや介助の度合により作業スピードが異なるため、スピードや流れ、説明の順番に配慮して授業を進めています。この他にも、漢字には振り仮名(ルビ)をつける、歯垢染色において染め出し部位が見つらい場合はiPadの写真機能を活用するなど、個々の障がいに配慮した授業を心がけています。どの活動においても、特別支援学校の先生方や、障がい者支援団体の方々など、多職種と連携して行っています。

今後も障がい者の方々に対する口腔保健普及啓発活動を進めてまいります。



岐阜県立岐阜聾学校にて手話を用いた指導を行う財団歯科衛生士

岐阜県立岐阜聾学校 養護教諭 夜陣 由香理 先生(談)
岐阜県立岐阜聾学校 養護助教諭 石原 楓世 先生(談)

本校では、歯科衛生士の方から幼稚部と小学部低学年の親子を対象に歯科指導を行っていただきました。歯科指導では、手話を交えて、視覚に訴えかけるようにパネルシアターを使用したり、絵を多用して画像を動かしたりと、様々な工夫が凝らしており、丁寧に説明していただきました。指導後には「口の中がきれいになったよ。」と見せてくれる幼児や児童もあり、歯みがきに対する意識が高まりました。

※合理的配慮：障がいのある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮のこと

企業従業員の健康保持増進のための取り組み

従業員一人ひとりに合わせた歯科保健指導の実践と歯科健康情報提供によるオーラルケアの意識向上を目指した取り組み

当財団はライオン株式会社、ライオン健康保険組合と共に、従業員が自ら歯と口の健康に関する予防意識を高め、健康の保持増進に結びつけられるよう、歯科健診や保健指導を行っています(All Lion Oral Health Activity (ALOHA))。ALOHA活動は2002年度から定期健康診断と併せて、従業員全員を対象に実施しています。その結果、2002年度から2017年度にかけて重度の歯周疾患罹患者の減少(11.5%→5.1%)、歯間清掃用具使用者率の増加(42.4%→76.9%)、および歯科医院での定期的なプロケア受診率の増加(10.2%→40.7%)など、改善が認められています。

第5期(2016年度～2018年度)であるALOHA Vは、ポピュレーションアプローチに加え、個別指導と歯科医院でのプロケア受診の推進を視野に入れたプログラムを行っています。2017年度は、唾液検査システム(SMT)を使った口のコンディションの確認、口腔内カメラを活用した保健指導、さらにeラーニングシステムを用いた健診前後の歯科健康情報提供に取組みました。経年的な

活動により、さらなる健康意識の向上、および歯科医院受診の促進を行っています。

これからも従業員のオーラルケアへの意識の向上と実践を目指し、健康経営に寄与する活動を行ってまいります。



従業員に対する歯科健診実施の様子

第74回全国小学生歯みがき大会を開催

DVD教材を視聴する方式で、日本全国およびアジア6カ国地域から約16万人の小学生が参加

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口の健康意識を育むことを目的に、毎年「歯と口の健康習慣(6月4日～10日)」に合わせて開催しており、1932年の第1回大会から74回大会までに参加した小学生は、延べ約124万人に及びます。

第74回大会は、これまでのインターネット配信による全国一斉実施方式から、参加校が6月1日～10日の大会期間内に実施日を設定し、45分間のDVD教材を視聴する方式へ変更して実施し、日本全国およびアジア6カ国・地域から小学校総数2893校、約16万人の小学生が参加しました。

大会では、「歯と自分をみがこう。」をテーマに、明海大学学長の安井利一先生監修のもと、「歯ぐき」を題材として、お口の状態に合わせたみがき方、デンタルフロスの実習を行いました。「予防歯科」への理解を深めるとともに、オーラルケアを通じて「継続する力」の大切さを学びました。また、今年大会では、年間を通じた指導者支援を行うため小学生歯みがき研究サイト「歯みがKids」での情報発信に加え、新たに家庭、保護者との連携を重点ポイントとして、子供たちが大会で学んだことを自宅で取り組み、家庭でも「予防歯科」を実践できるよう施策を展開しました。

今後も、多くの小学生に、オーラルケアの定着と継続の重要性を伝えるため、内容の充実を図りながら活動を続けてまいります。



歯みがきの実習に取り組む参加校の児童



参加校の様子

スポーツの場面における歯科保健活動の推進

卓球の小学生強化選手を対象に歯科講演を実施

小学生への歯科保健活動の新たなフィールドとして、卓球の小学生強化選手を対象に、オーラルケアを含む生活習慣を定着させ、主体的な健康行動に繋げることを目的に、男女各3回、述べ約120名に歯科講話を行ないました。

良いパフォーマンスのためには、毎日の栄養摂取や筋力トレーニングを行なうことと同様に、毎日のオーラルケアで口腔内のトラブルを予防することや、自分に合ったオーラルケア用具を選んで使うことの重要性について示しながら、オーラルケアとスポーツの関係性を伝えました。強化選手の皆さんは「オリンピック選手」「世界一」を目指す中で、練習を毎日継続することと一緒に、毎日のオーラルケアで「デンタルフロスを使う」「定期的に歯科医院へ行く」など、具体的に予防歯科の実践に取り組むことを目標に掲げていました。

また、小学生の時期は他律から自律への移行期であり、保護者の関わりも大変重要であることから、保護者・指導者約50名に歯科講話を行ないました。遠征等で親元を離れる機会も多いことから、保護者自身のオーラルケア意識の向上と選手の自律のための家庭での声かけについてお話ししました。

今後も、オーラルケアの啓発を通して、小学生の夢の実現を支援してまいります。



デンタルフロスの実習の様子



卓球の要素も交えながら講話を行う当財団歯科衛生士

2017年度口腔保健普及啓発活動 報告

母子歯科保健活動 2017年度参加乳幼児・園児 2,790人、保護者 377人 累計：115万人

母子歯科保健活動は、乳幼児のむし歯予防には、母親のむし歯予防への理解と関心を高めることが大切であるとの考えから、1959年より始まり「たんぼぼ運動」の愛称で親しまれてきました。現在は、地域行政や歯科医師会などと連携し、妊婦や乳幼児、園児とその保護者を対象に活動を行っています。

2017年度の主な活動には、4月パシフィコ横浜で開催された(一社)日本マタニティフィットネス協会主催の「マタニティ&ベビーフェスタ2017」で、ブース展示とミニセミナーを行い、2日間で119組のご家族に情報提供を行いました。ミニセミナーでは、妊婦向けに「妊娠中のお口のケア」、子育て中の保護者向けに「歯が生えてくる頃の『はじめての歯みがき』」の内容で健康意識の向上や子供のむし歯予防の大切さについて啓発を行いました。

今後も、家庭での予防歯科が推進するよう内容の充実および情報の発信を行ってまいります。



「マタニティ&ベビーフェスタ2017」でのミニセミナーの様子

小学生歯科保健活動 2017年度参加者数 2,239人 2017年度歯みがき大会参加児童数 約16万人 歯みがき大会累計：約124万人

口腔保健活動は1913年に、正しい歯みがき習慣を身につけさせ、むし歯を予防することを目的に、全国各地で行われた「ライオン講演会」が原点です。「むし歯予防は学童期から指導することが大切である」との考えから、全国の小学校で歯科保健指導を行ってきました。現在は、養護教諭など保健指導者向けに、歯科保健指導の際に活用できる啓発媒体の提供を行うことで、多くの小学生が歯と口の健康の大切さについて学ぶ機会が増えるよう支援を行っています。

2017年度の主な活動としては、地域の養護教諭部会において、当財団が配信する小学生歯みがき研究サイト「歯みがKids」の掲載内容を参考にしながら授業の指導要項を作成するワークショップを開催し、小学生への保健指導の実践につながるよう支援を行いました。

今後も、より多くの小学校の指導者を通して、小学生を支援する体制を整えてまいります。



養護教諭向け研修会で参加者がグループワークを実施している様子

思春期歯科保健活動 2017年度参加者数 3,858人

当財団の思春期歯科保健活動は、生活習慣などの乱れが多くなり、むし歯や歯周病が発生・悪化する思春期の生徒に、自分の健康への関心を高め、生活習慣の課題を発見し解決できるように動機付けすることが大切との考えから始まりました。近年、小学生のむし歯本数は年々減ってきましたが、中学生以降になると、口腔内状況が悪化してしまう傾向にあります。小学生の時に培ってきた規則正しい生活習慣を中学・高校になっても続けられるように支援したいと考え活動を続けています。

2017年度の主な活動として、「第37回全国高等学校クイズ選手権」の関東会場および近畿会場にて、参加した高校生にデンタルフロスやデンタルリンスの体験を行うブースを設置し、約400人に啓発を行いました。特に今年は女子高生に焦点を当て、より親しみを感じてもらうためにピンク色のフロス用ケースや、フロスの使用方法を記載したクリアファイルを作成し、参加者約3500人に配布しました。

これからも、思春期の生徒に目線を合わせた情報発信を行い、歯と口の健康から生涯にわたる健康習慣が確立できるよう支援していきたいと考えています。



第37回全国高等学校クイズ選手権でのデンタルフロス啓発の様子

成人歯科保健活動 2017年度参加者数 21,271人 累計：209万人(1961年より)

当財団の成人歯科保健活動(産業歯科保健活動)は、家族の歯と口の健康を守るには、特に女性を中心に指導を行うことが重要との視点から、1961年に「さくらんぼ運動」の愛称で開始されました。現在は就業者を対象に歯科健診、歯科保健指導、講演会などを実施しています。2017年度は年間116事業所、約1万7千人の就業者を対象に実施し、1961年の活動開始から延べ約209万人に活動を行いました。

働き盛りの成人期に、自分の歯と口の健康状態を理解し、予防意識を高めることは健康寿命の延伸・生活の質の向上に大きく関わってきます。継続した歯科保健活動を行うことは、就業者の予防歯科意識を高め、歯科疾患の減少、さらには歯科医療費削減などにも繋がっていくことが期待できます。

これからも、歯と口の健康を通じて全身の健康を見据えた予防意識の向上、および健康行動への変容を目指し、より質の高い歯科保健活動を行ってまいります。



就業者への歯科健診の様子

高齢者歯科保健活動 2017年度参加者数 46,648人 累計：7万人(2007年より)

生涯にわたり、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を担う、口の機能(口腔機能)は、気づかぬうちに低下しやすいため、日頃から保持・増進していくことが大切です。当財団では口腔機能の低下に早く気づき、保持・増進に結びつくように手軽にできる「健口美」体操を作成し、生活者へ情報を発信しています。

2017年度の主な活動として、9月9～12日に秋田県で開催された「ねんりんピック」の愛称で親しまれている60歳以上の方を対象とした「全国健康福祉祭」にて「健口美」体操の啓発を行いました。「口の周り」、「かむこと」、「飲み込み」、「口の清潔度」の4つの分類で口の元気度チェックを行い、日頃の自分の口の状態や低下している口の機能を理解してもらった上で、音楽に合わせて楽しく体操を行いました。その他にも、各地の高齢者向け講演会や全国各地で開催されたウォーキングイベントなどで「健口美」体操を行い、2017年度は全国で約46,000人に対して啓発を行いました。

今後も多くの人々が生涯にわたりいつまでもおいしく食べ、楽しく話し、笑いのあるいきいきとした生活を送ることができるように「健口美」体操の普及を図りたいと考えています。



ねんりんピックでの「健口美」体操啓発の様子

その他歯科保健活動

当財団ではその他にも様々な方に向けた歯科保健活動を行っています。2017年度には、企業で働く障がいのある方86人に「歯科講演会」を実施しました。さらに児童相談センターなどでの歯科保健活動にも協力しています。当財団では、2009年から虐待をうけている子どもの自立を支援するため、東京都児童相談センター内の一時保護所において、歯科医師の先生方とともに毎月1回、歯科健診と保健指導を行っており、2017年度は305人の子どもに対して支援を行いました。

今後も様々な方に対しての活動を積極的に行い、更なる歯科保健の向上のための支援を行っていきます。



障がいのある方へ歯科講話を実施する様子

海外での活動

当財団では、長年培ってきた口腔保健指導の知識や経験を世界、特に東南アジアの国々に広げ、口腔保健の向上に貢献したいと考えています。各国・地域の企業など他団体からの依頼により活動を実施しています。今後もそれぞれの国・地域に根付く活動となることを目指しています。

台湾 歯みがき大会の実施

第74回全国小学生歯みがき大会は、日本全国47都道府県とアジア6ヶ国・地域の小学校から参加がありました。台湾は今大会が初めての参加であることから6月26・28日に現地の日本人学校2校（高雄日本人学校・台中日本人学校）、合計71名（4～6年生）の小学生に対して当財団の歯科衛生士が歯みがき大会実施の支援を行いました。参加した小学生は「健康な歯ぐきと歯肉炎の見分け方」や、「お口の状態に合わせた歯のみがき方とデンタルフロスの実習」など大会DVDの映像に合わせて、鏡で自分の口を見ながら熱心に参加していました。当日は保護者の見学もあり、大会終了後に保護者へ向けて家庭での「大会参加後の子供達へのサポート方法」や「予防歯科の実践と大切さ」について講話を行いました。



台湾の日本人学校での指導の様子

ベトナム ホーチミン歯みがき教室の実施

2018年1月29日～2月1日の4日間、ベトナムのホーチミン市小学生を対象とした歯みがき教室を現地の小学校で開催しました。4校約6,000人の小学生が参加した今回のイベントは現地新聞社のトイチェ新聞が主催で、共催毎日新聞社、協賛ライオン株式会社で行われ、ライオン株式会社の依頼により当財団が講演を行いました。

むし歯予防の重要性や年齢に合わせた歯みがき方法、間食のとり方について、クイズや実習を交えながら講演を行いました。また、イベント後も小学生が歯みがき習慣を継続できるよう、家庭での啓発用パンフレット、学校掲示用ポスターを製作し参加児童や教職員に配布をしました。今回のイベントがベトナムの小学生のよりよい歯みがき習慣の定着につながればと考えています。



ベトナムの小学校にて歯みがき指導を行う財団歯科衛生士

インドネシア 生活者へ向けた保健指導の実施

2018年3月3日～4日にインドネシア・ジャカルタ市内のコタカサブランカショッピングモールで開催された健康長寿広報展（主催：JETRO）にて、生活者のオーラルケア意識の向上を目的としたブース展示を行いました。ブースでは、口腔内カメラを用いて、お口の状態を確認しながら、その方の状況に合わせたオーラルケアの提案を行い、2日間で485名の参加がありました。今回の活動を通して、日本とインドネシアでの口腔衛生や予防に対する意識の違いを感じ、海外における啓発活動の重要性を改めて感じました。今後も、日本のみならず海外でも啓発活動を推進し、各国の口腔衛生の向上に貢献していきたいと考えています。



口腔内カメラを用いてインドネシアの生活者へ保健指導を実施

マレーシア 唾液検査システムの紹介

当財団は、ライオン株式会社、SOUTHERN LION SND.BHD.からの依頼により2017年7月27～30日にマレーシアで開催された、MDA (Malaysia Dental Association) 主催の歯科学会イベント「MIDEC2017」で、マレーシアの歯科医師や歯学生など約150人に対して唾液検査システム「SMT」を用いた歯科保健活動を行いました。SMTとは、一定量の水でゆすいだ唾液を用いて、むし歯や歯周病などに関連した6項目の検査が5分で測定できる唾液検査システムです。測定を体験した方からは「短時間で口腔内の状態がわかるのはすごい」「自院でも取り入れたい」といった声をいただきました。また、測定を通して、多くのマレーシアの歯科関係者と交流し意見交換を行いました。



唾液検査システムの結果を説明する様子

ライオン健康セミナー

東京と大阪で「健康長寿社会の実現を目指した歯科医療」をテーマに3名の先生をお招きしセミナーを開催

ライオン健康セミナーは、歯科専門家を対象に口腔の健康に関連する最新情報や歯科診療所で役立つ情報を発信する目的で1992年から東京で始まり、2015年の第24回からは大阪でも毎年開催しています。

近年、口腔の健康が全身の健康に及ぼす影響が次第に明らかになり、健康寿命の延伸や生涯現役社会、生活の質の向上を担う歯科医療の役割が重要性を増してきています。このような背景から、第27回のセミナーは「健康長寿社会の実現を目指した歯科医療をめざして」をテーマに3名の先生をお招きしました。

東京開催は2018年1月28日、品川グランドセントラルタワー ザ・グランドホールで開催され372名が参加しました（大阪開催は2018年4月22日、グランフロント大阪で開催され179名が参加しました。）。

- 1 下方浩史先生（名古屋学芸大学大学院 栄養科学研究所 教授）
▶ 健康長寿を目指す生き方
- 2 松尾浩一郎先生（藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科 教授）
▶ 食べる機能の維持、回復に向けた多職種連携による取り組み
- 3 二階堂雅彦先生（医療法人鳴矢会 二階堂歯科医院 理事長、日本臨床歯周病学会 前理事長）
▶ 歯周病の9割は歯科衛生士が治す！



第27回ライオン健康セミナーの様子

情報発信活動

財団ホームページのリニューアルを実施

当財団では口腔保健普及啓発活動や調査研究活動などを実施して得られた成果について、歯科専門家や保健指導者、一般生活者に向けて広く情報発信しています。その1つとして、2007年よりホームページを開設し、長年実施してきた社会貢献活動や、その活動ノウハウ、研究成果などを公開しています。より多くの方々に当財団の取り組みを知っていただくと共に、閲覧しやすいホームページになるようにと考え、2018年1月にホームページのデザイン・内容を全面的に見直しリニューアルをしました。

今まで公開していた当財団の基本情報はもちろん、生活者や医療従事者、保健指導者など様々な方に向けた情報をより分かりやすく掲載しています。特に生活者向けには、「歯と口の健康研究室」を公開し、歯と口のトラブルの原因、ケア方法などを百科辞典形式で掲載しています。

その他にも、生活者の方に自宅で手軽に口腔ケアを取り入れていただくために、日めくり式エクササイズ書籍「日めくりまいにち、美顔トレ」が2017年11月に扶桑社より発行され、当財団は製作に協力しました。今後もホームページや書籍など様々な媒体を通じて多くの人々に情報発信をしていきたいと考えています。



リニューアルしたライオン歯科衛生研究所ホームページ
<https://www.lion-dent-health.or.jp/>



日めくりまいにち、美顔トレ

東京デンタルクリニック

2017年度患者数 10,447人 累計：184万7千人

東京デンタルクリニック活動

東京デンタルクリニックは、1921年(大正10年)に東京・銀座に開設された「ライオン児童歯科院」に始まります。1971年以降の目黒での診療所を経て、2014年に五反田駅前に新たに「東京デンタルクリニック」を開設し、診療を行っています。

歯科専門家向けセミナーの開催

当財団では予防歯科の普及啓発活動の一環として、歯科医師・歯科衛生士に向けた専門家セミナーを1984年より開催しています。

これらのセミナーは臨床ですぐ実践できるよう、少人数制で開催しています。2017年度は新たに「シャープニングセミナー」を開催しました。他にも歯科衛生士対象の「歯周病管理セミナー」は、歯周治療について理解を深め、歯周病の予防・処置方法を学ぶことができる内容で開催しています。さらに、歯科医師・歯科衛生士対象の「カリエスリスクセミナー」はう蝕予防に効果的なフッ化物の使用方法やシーラント、高齢化に伴い増加傾向にある歯根面う蝕の予防策など、財団が提唱するリスクコントロールデンティストリーに基づいた内容で開催しています。すべてのセミナーは東京デンタルクリニックで行い、相互実習を取り入れ、グループ毎に講師が指導を行うため、日々の診療で疑問に感じていたことを解決できたと好評を得ています。

今後も財団が考える予防歯科の啓発を専門家向けに発信し、お口の健康の維持、生活の質の向上に貢献できるよう活動していきたいと考えています。



歯周病管理セミナーの様子

障がい者歯科外来の開設

障がい者の方々の生活の価値観を尊重する地域包括ケアを実現していくために、生活に寄添い支えあう医療が求められています。

東京デンタルクリニックでは2017年4月に「障がい者外来」を開設しました。歯科治療に特別な配慮や介助が必要な方々に、より良質なお口のケアや治療を受けていただくための外来で、日本障害者歯科学会の専門医が担当します。診療の進め方を伝えるために「絵カード」の使用など、ご本人やご家族との十分な相互理解のもと最も適した方法を選び、予防処置や治療を行なっています。また、地域の関係機関や二次医療機関と連携し、患者さんの期待に応えることのできる体制作りにも取り組んでいます。



「絵カード」を用いた診療の様子

東京デンタルクリニック発行の季刊誌「お口の時間」

東京デンタルクリニックでは、患者さんや地域住民に向けた季刊誌「お口の時間」を通して、お口の健康に関する役立つ情報を発信しています。2017年度には、40号～43号を各号1,000部発行し、患者さんとのコミュニケーションツールのひとつとして活用しています。今後も診療活動での配布と併せてホームページにも掲載し、皆様の生活の質の向上に繋がる情報の発信を行ってまいります。

- 40号「障がい者外来開設編」
- 41号「大人モードの歯みがき剤編」
- 42号「世界にひとつだけのお口編」
- 43号「オーラルフレイルとエイジング編」



東京デンタルクリニック発行の季刊誌「お口の時間」

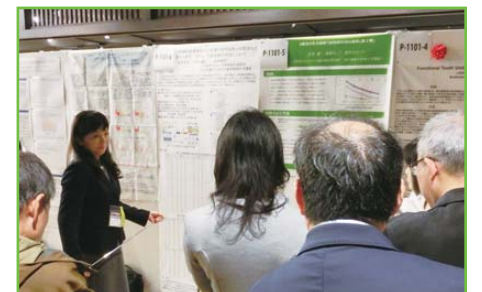
調査研究活動の推進

当財団の活動から得られるデータを収集し、大学など外部機関と連携しながら解析を行うなど、口腔保健に関連する調査研究活動を行っています。研究成果は、論文、学会発表、講演会、セミナーなどを通じて歯科関係者、保健指導者に向けて広く情報発信しています。さらに、研究成果は当財団の口腔保健活動などにフィードバックし、生活者の口腔保健の向上の実現に向けて活動を行っています。

3歳児う蝕の要因解明に関する研究

う蝕のある3歳児の割合は年々減少しており、下顎前歯のう蝕はほとんど見られなくなりました。これに対して上顎前歯の歯間部のう蝕は10年ほど前から横ばいであることがこれまでの調査研究で明らかになりました。

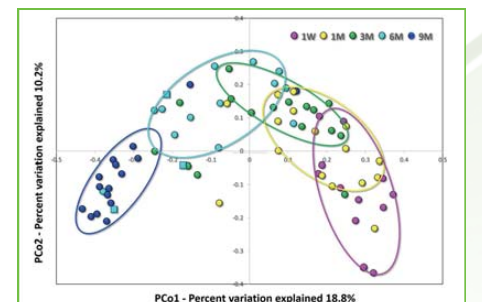
この要因を解明するため、今年度は3歳児104名の歯垢を分析しました。その結果、上顎前歯の歯垢は、下顎に比較してミュータンス連鎖球菌の割合が高いことが明らかになり、この部位のう蝕予防にはデンタルフロス等の歯間清掃用品が有用であることが示唆されました。この結果は「第55回日本小児歯科学会大会(2017年5月/北九州市)」「第76回日本公衆衛生学会総会(2017年10月/鹿児島市)」で報告しました。今後も更に調査を進め、3歳児のカリエスフリー90%達成へ貢献することを目指します。



第76回日本公衆衛生学会総会での報告の様子

乳幼児期の口腔内フローラの推移と食・生活習慣との関連性に関する研究

生後まもなく形成される「口腔内フローラ(成人では700種類以上にもなるといわれている口腔細菌の集まり)」には、病原菌の侵入を防ぐなどの重要な働きがあると考えられていますが、その形成に及ぼす要因は不明な点が多く残されています。そこで当財団ではどのような食・生活習慣をすればどのような細菌が住み着いて、う蝕原因菌などの病原菌の侵入を防ぐのかを明らかにすることを目的に、ライオン株式会社と共同研究を行っています。今年度は、生後1週間目から9か月目までの口腔内フローラの推移を次世代DNAシーケンサにより解析しました。その結果、歯の萌出以前から口腔内フローラが変化することを明らかにし、「第66回日本口腔衛生学会・総会(2017年5月/山形市)」で報告しました。



生後1週間目からの口腔内フローラの推移

ダウン症のある方の口腔疾患リスクの特徴とその予防法に関する研究

ダウン症は23対ある染色体の21番目の染色体の異常による先天性疾病で、およそ800人から1,000人に一人の割合で起こります。多くの歯科的特徴が報告されており、中でも歯周疾患の早期発症と進行が知られています。当財団ではダウン症のある方の口腔疾患の治療にあたることも効果的な予防方法を確立することを目的とした調査研究を継続しています。今年度は対象者66名の初回検査時の口腔内の状況と疾患リスクの関連性ならびに乳児期における口腔内フローラ(細菌叢)の特徴を明らかにして、それぞれについて「第34回日本障害者歯科学会総会(2017年10月/福岡市)」にて報告しました。今後も調査研究を継続し効果的な予防方法の確立を目指します。

第34回日本障害者歯科学会総会での発表の様子
財団発表者(左)

保育園におけるう蝕リスクに関する研究

東京デンタルクリニックでは2017年度より近隣の保育園において卒園までう蝕発症ゼロを目指した調査研究を開始いたしました。歯科健診時に質問紙調査に加えて唾液・歯垢検査を実施して『う蝕リスク』を判定しています。この判定に基づいて一人ひとりのう蝕リスクに応じた口腔保健指導を実施、その後の評価を行っていくことで、保育園でのう蝕ゼロの実現に向けたリスクコントロール・デンティストリーの確立を目指しています。

調査研究活動の推進

弘前大学 COI との共同と取り組み

(公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 / ライオン(株) / 弘前大学の連携体制)

当財団は、2016年度より弘前大学で推進している「弘前大学COI(文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム)」にライオン(株)と共同で参画し、口腔保健の立場から研究事業と社会実装に取り組んでいます。

弘前大学が青森県弘前市(岩木地区)で過去10年間以上実施してきた健康診断(岩木健康プロジェクト)により収集した膨大な健康情報のビックデータを活用し、口腔保健と生活習慣病等との関連性を解析しています。また、2017年度から健診後の行動変容につなげることを目的に、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、うつ病・認知症、口腔保健を総合的に健診し、結果判定、啓発を即日で行う「啓発型(新型)健診」のトライアル版を実施しました。これは従来型の健診は受診者自身のヘルスリテラシーを十分に向上させることができず、その結果、健診後の行動変容につながりにくいという弱点があるためです。さらに小学生から若者世代の啓発が健康づくりには大切であることから、弘前大学COIのホームページに掲載している小中学校の健康授業に活用できる健康教育のツール「ファミリー・ヘルス・ラボ」に、お口の健康、初期むし歯、歯みがきの方法に関する解説と動画など口腔の健康教育を追加することに協力しました。

今後、ビッグデータ解析から社会実装までを一体化し、健康長寿社会の実現を目指した口腔保健活動に積極的に取り組んでいきます。



今の夢、10年後の常識。
新しい未来をつくりたい。



家族の健康物語 Family Health Lab
<歯と口の健康>編の製作に協力

<http://coi.hirosaki-u.ac.jp/benesse-familyhealthlab/oral/index.html>

日本歯科衛生学会 学術賞受賞((公財)ライオン歯科衛生研究所賞)の表彰

日本歯科衛生士会と日本歯科衛生学会は歯科衛生の向上と実践に根ざした学術研究において、優れた成果をあげ、人々の健康と福祉に寄与する研究発表に対して学術賞(公財)ライオン歯科衛生研究所賞を毎年授与しています。当財団はこれに協賛し、学術の向上を支援しています。2017年9月16~18日に開催された日本歯科衛生学会第12回学術大会(品川区立総合区民会館)において、2017年度日本歯科衛生学会学術発表賞の表彰式が行われ、受賞した3名の方に当財団の山本副理事長から表彰状と副賞を授与しました。

■第11回学術発表賞表彰者(敬称略)

【口演発表賞】

- 嚥下障害患者の咬合支持状態と嚥下能力・栄養状態の関連
大塚佳代子(第二会員)

【ポスター発表賞】

- 嚥下時口腔内圧測定による臨床的接食嚥下機能評価の試み
深田恵里(広島県)

【学生研究賞】

- 殺菌成分含有市販歯磨剤の使用が口腔内細菌数に与える影響
前田実穂(東京都)



学術発表賞表彰の様子
日本歯科衛生士会会長(左)受賞者(中央)
当財団山本副理事長(右)

学術発表

口腔保健に関する調査研究を推進し健康の増進に役立つ最新情報を論文発表や学会発表などを通じて発信しています。

2017年度は論文6件と学会発表13件を行いました。

アンダーライン：財団所員

論文投稿

- 1 山崎洋治, 森田十誉子, 藤春知佳, 川戸貴行, 前野正夫:
「職域成人における口腔清掃習慣と歯周ポケット形成との関連性—産業歯科健診情報を活用したコホート研究—」. 口腔衛生会誌 68:21-27, 2017
- 2 小島佑貴, 野原佳織, 坂口豊:
Dental Treatment for a Patient with Parkinson's Disease and a Deep Brain Stimulation System. Bull Tokyo Dent Coll
- 3 小島佑貴, 小島瑞巴, 國分伸浩, 稲毛恵, 貨泉朋香, 野原佳織, 坂口和弘, 坂口豊:
New evaluation for dental treatment using a body-composition analyzer. Denthyp.8:110-112, 2017.
- 4 Hideki Tanaka, Kumiko Nakai, Fumiko murakami, Toyoko Morita, Yoji Yamazaki, Rieko Matsuike, Chika Shibata, Maki Nagasaki, Maki Nagasaki, Mai Kanda, Natsuko Tanabe, Taakayuki Kawato and Masao Maeno:
Ligature-Induced Periodontitis Increased Insulin Resistance and Triglyceride Levels in Wistar Rats. Journal of Hard tissue biology, 26:291-267, 2017
- 5 Nakai K, Tanaka H, Yamanaka K, Takahashi Y, Murakami F, Matsuike R, Sekino J, Tanabe N, Morita T, Yamazaki Y, Kawato T, Maeno M:
Effects of C-reactive protein on the expression of matrix metalloproteinases and their inhibitors via Fcγ receptors on 3T3-L1 adipocytes. Int J Med Sci.9:14:484-493, 2017
- 6 田口可奈子: 成人の歯科予防処置に必要な歯科衛生士数の評価—山梨県の歯科医療機関における質問紙調査から— . 口腔衛生会誌 67:18-22, 2017

学会発表

- 1 鈴木基之: 35年にわたり良好に経過した1症例. 第60回春季日本歯周病学会学術大会
- 2 武田香, 森嶋清二, 河野有里, 眞木吉信: 3歳児乳切歯部齲蝕要因の検討. 第55回日本小児歯科学会大会
- 3 田口可奈子, 藤春知佳, 久保田好美, 深谷瑠美: e-ラーニングシステムを活用した間接保健指導の有効性評価. 第66回日本口腔衛生学会・総会
- 4 森田十誉子, 山崎洋治, 藤春知佳, 稲葉卓, 川戸貴行, 前野正夫:
歯科保健行動と心血管代謝リスク指標の陽性化との関連性に関するコホート研究. 第66回日本口腔衛生学会・総会
- 5 二川祐子, 白石奈々子, 大江未久, 佐々木江美, 河野有里, 鈴木誠太郎, 眞木吉信:
歯科診療所における定期的な成人歯科健診の有用性に関する研究. 第66回日本口腔衛生学会・総会
- 6 森嶋清二, 武田香, 河野有里, 眞木吉信: 乳児期における口腔細菌叢の多様性の変化について. 第66回日本口腔衛生学会・総会
- 7 鈴木基之: 26年間効果的に推移した歯科口腔衛生指導の1例. 第66回日本口腔衛生学会・総会
- 8 武田香, 森嶋清二, 眞木吉信: 1歳6か月および3歳児のう蝕原因細菌の検出率と有病率の検討. 第66回日本口腔衛生学会・総会
- 9 森嶋清二, 武田香, 城隆太郎, 河崎悠, グリーナンせつゑ, 眞木吉信:
ダウン症候群児の唾液中細菌叢に関する研究. 第34回日本障害者歯科学会・学術大会
- 10 グリーナンせつゑ, 武田香, 森嶋清二, 眞木吉信: ダウン症候群の唾液中のう蝕歯周病原菌の調査. 第34回日本障害者歯科学会・学術大会
- 11 武田香, 森嶋清二, 眞木吉信: 3歳児の乳切歯部う蝕有病状況の推移(第2報). 第76回日本公衆衛生学会総会
- 12 城隆太郎, 山和馬, 石原央子, 堤康太, 丸山真達, 武田香, 河野有里, 森嶋清二:
乳幼児期における口腔細菌叢形成過程の解析. 第91回日本細菌学会総会
- 13 田中秀樹, 中井久美子, 森田十誉子, 山崎洋治, 岡仁, 小口久雄, 原田修成, 川戸貴行, 前野正夫:
ラットにおける実験的歯周炎がメタボリックシンドローム指標と肝臓に及ぼす影響. 第66回日本口腔衛生学会・総会

外部助成活用事業

- 1 武井典子(分担研究): 認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究、平成29年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)長寿・障害総合研究事業 長寿科学研究開発事業
- 2 武井典子(分担研究): 歯科衛生士の新人教育、復職支援のためのeラーニング教材の開発、活用と評価、平成29年度科学研究費助成事業 基盤研究(C)
- 3 森田十誉子(分担研究): 歯周病に着目した非肥満型メタボリックシンドローム予防に関する細胞生物学・疫学研究、平成29年度科学研究費助成事業 基盤研究(C)
- 4 森田十誉子(分担研究): 新たな歯科のスクリーニング手法の開発および歯科保健サービスが歯の健康づくりに与える影響等に関する研究 平成29年度厚生労働科学研究 生活習慣病・難治性疾患克服総合研究事業
- 5 石井孝典: 介護予防のための住民参加型口腔機能向上事業～口腔機能減退への気づきと支援～高齢者が高齢者を支える活動を通して、8020推進財団 平成29年度歯科保健活動助成事業

図書・執筆

- 川戸貴行, 森田十誉子: 「歯周病とメタボリックシンドロームの関係 わかっていることいないこと」. The Quintessence. Vol.37 No.3:46-60, 2018

理事・監事・評議員

平成 30 年 3 月 31 日現在

評議員 (任期：平成 26 年 6 月 23 日～平成 30 年定時評議員会終結時) 評議員 18 名

	氏 名	役 職 名	
評 議 員	荒川 浩久	神奈川歯科大学大学院 口腔衛生学講座 教授	歯学博士
評 議 員	伊藤 公一	日本大学 歯学部 特任教授	歯学博士
評 議 員	川口 陽子	東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学分野 教授	歯学博士
評 議 員	川端 康嗣	ライオン歯科材株式会社 代表取締役社長	
評 議 員	川本 強	日本学校歯科医会 会長	歯学博士
評 議 員	神原 正樹	大阪歯科大学 名誉教授	歯学博士
評 議 員	菊谷 武	日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長	博士(歯学)
評 議 員	嶋崎 義浩	愛知学院大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評 議 員	高野 秀夫	東京商工会議所 常任参与	
評 議 員	高橋 龍太郎	東京都健康長寿医療センター研究所	医学博士
評 議 員	花田 信弘	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
評 議 員	平田 創一郎	東京歯科大学 教授	博士(歯学)
評 議 員	福田 洋	順天堂大学 医学部 准教授	医学博士(公衆衛生学)
評 議 員	丸山 進一郎	品川学校歯科医会 会長	歯学博士
評 議 員	満武 純	ライオン株式会社 ヘルス＆ホームケア事業本部 副本部長	
評 議 員	向井 美恵	昭和大学 名誉教授	歯学博士
評 議 員	柳沢 幸江	和洋女子大学 家政学群 教授	博士(栄養学)
評 議 員	和田 啓二	ライオン株式会社 研究開発本部	

理 事 (任期：平成 28 年 6 月 21 日～平成 30 年定時評議員会終結時) 理事 13 名

役 職	氏 名		
代表理事	藤重 貞慶	ライオン株式会社 相談役 ライオン歯科衛生研究所 理事長	
代表理事	山本 高司	ライオン歯科衛生研究所 副理事長	
業務執行理事	新井 竜次	ライオン歯科衛生研究所 統括部長	
業務執行理事	石井 孝典	ライオン歯科衛生研究所 理事	
理 事	天野 敦雄	大阪大学大学院 歯学研究科 研究科長 大阪大学 歯学部 歯学部長	歯学博士
理 事	石井 拓男	東京歯科大学 常務理事 東京歯科大学短期大学 学長	歯学博士
理 事	井出 吉信	東京歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理 事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理 事	高野 直久	日本歯科医師会 常務理事	歯学博士
理 事	田上 順次	東京医科歯科大学 理事・副学長 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授	歯学博士
理 事	服部 正巳	愛知学院大学 歯学部 高齢者歯科学講座 教授 愛知学院大学 歯学部附属病院 病院長	歯学博士
理 事	眞木 吉信	東京歯科大学 教授 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 東京デンタルクリニック院長	歯学博士
理 事	安井 利一	明海大学 学長	歯学博士

監 事 (任期：平成 28 年 6 月 21 日～平成 30 年定時評議員会終結時) 監事 3 名

役 職	氏 名		
監 事	上林 博	上林法律事務所	弁護士
監 事	木村 直人	木村直人税理士事務所	税理士
監 事	西山 潤子	ライオン株式会社 監査役	

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所のあゆみ

- 1913 年
- 口腔衛生啓発活動開始(写真①)
- 1921 年
- 「ライオン児童歯科院」開設(写真②)
- 1932 年
- 「第 1 回学童歯みがき大会」(現：全国小学生歯みがき大会)開催(写真③)
- 1952 年
- 口腔衛生普及車「ライオン・ヘルスカー 1 号」完成(写真④)
- 1958 年
- 母子歯科保健活動(たんぼぼ運動)開始
- 1961 年
- 就業者への歯科保健活動(さくらんぼ運動)開始
- 1964 年
- 「財団法人ライオン歯科衛生研究所」設立
「ライオンファミリー歯科診療所」開設(東京・京王デパート)
- 1965 年
- 学童歯みがき大会をオリンピック競技場(国立競技場)で開催(写真⑤)
- 1984 年
- 台湾の園・小学校で歯科保健活動実施(写真⑥)
- 1992 年
- ライオン New Year セミナー(現：ライオン健康セミナー)開始
- 1998 年
- マレーシアでの口腔保健活動実施
- 2004 年
- 設立 40 周年記念として「歯周病と全身の健康を考える」を発行
- 2005 年
- 視覚障害者向け歯の健康冊子 「さわってわかる歯みがきの本」監修
- 2007 年
- ホームページ開設、季刊誌「お口の時間」発行
- 2008 年
- 学童歯みがき大会のインターネット配信をスタート
- 2010 年
- 公益財団法人として内閣府より移行認定
- 2014 年
- 目黒駅前歯科診療所を東京デンタルクリニックとして五反田に移転・開院(写真⑦)
「口腔機能への気づきと支援 ーライフステージごとの機能を守り育てるー」を発刊
- 2015 年
- 「健康をみがく笑顔をふやす」 シリーズ全 4 巻発行
- 2016 年
- LDH 国際シンポジウム[健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性] を開催
- 2017 年
- 「歯みがき 100 年物語」発刊
第 74 回全国小学生歯みがき大会を開催。16 万人が DVD で参加(写真⑧)
- 2018 年
- 第 26 回ライオン健康セミナーを東京、大阪で開催(写真⑨)

